

令和元年度 第3回吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議

議事要旨

1 日時 令和元年(2019年)11月26日(火) 18:00～20:00

2 場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

3 議題

(1) ガイドライン策定工程表について

(2) 北千里小学校跡地複合施設への木材利用について

(3) 北部消防庁舎等複合施設の進捗状況について

(4) 市有施設における木造・木質化のターゲットについて

(5) 大阪府内産材・能勢町産材の流通等について

4 出席者

<出席委員>

五十田博 委員 畑中直樹 委員 花崎由泰 委員

津本裕二 委員 前田博之 委員

<欠席委員>

無し

<吹田市公共施設等への能勢町産等木材利用推進検討会議設置要領第6条に基づく出席者>

【オブザーバー】

環境省近畿地方環境事務所 遊佐秀憲環境対策課長

【関係室課】

曾谷俊弘まなびの支援課長代理、木村明生消防本部総務予防室統括参事、

細木俊宏消防本部総務予防室主幹、

<事務局>

平野和男環境政策室長、楠本直樹環境政策室参事、丸谷友孝環境政策室主幹、

柏木郁乃環境政策室主査、八木春樹環境政策室主任、(株)内藤建築事務所 5名、

(一財)大阪府みどり公社 4名

<傍聴者> 0名

5 議事内容

－開会－

事務局挨拶

○議題1 ガイドライン策定工程表について

事務局より、資料1に基づき説明を行った。

(1) 今後、モデル施設の基本設計が本格的に始まる。

○議題2 北千里小学校跡地複合施設への木材利用について

まなびの支援課より、資料2-1、資料2-2及び資料2-3に基づき説明が行われた。

- (1) 内装制限のことを考えると、天井よりは壁面に使うという考え方もあり得る。様々な選択肢がある中で、今回の案を選んだ理由が分かりづらい。
- (2) 資料には製材は調達しやすいと書いてあるが、一般的な構造用製材のJAS認定工場が大阪府にないため、調達のしやすさについては、構造用製材と集成材とは変わらぬと思う。
- (3) その他建築物にした場合、防火壁が必要ということだが、セキュリティーが必要なゾーンに防火壁を兼ねさせるという考え方もある。
- (4) 素人には木材利用検討のプロセスが分かりづらいので、例えば複数のパターンで比較するというような形で、検討した過程が分かる資料があればより分かりやすい。
- (5) 今回の複合施設は特殊な木材利用方法ではなく、経済性に配慮した一般的なものを追求すべきである。

○議題3 北部消防庁舎等複合施設の進捗状況について

総務予防室より、資料3に基づき説明が行われた。

- (1) パブコメや政策会議を経て策定された基本構想・基本計画の基本的な方針の1つに「環境に配慮した施設」を掲げており、「国産の内装材等で木質化を図る」と謳っている。能勢町産材、大阪府内産材の利用にあたっては、木材利用推進検討会議の趣旨に沿って検討する。

○議題4 市有施設における木造・木質化のターゲットについて

事務局より、資料4-1及び資料4-2に基づき説明を行った。

- (1) 木造、非木造施設の延床面積と単価の比較について、階毎に整理した形での比較ができれば良いが、元のデータがないため難しい。
- (2) 2階建て以下で500㎡以下であれば木造で建て替えやすい。
- (3) 兵庫県に施設の構造・面積と事業費の関係のデータが少しあるので参考にすること。
- (4) 建築基準法による建てやすさ等の観点だけでなく、木を利用することによって市民が

本当に喜ぶような施設(福祉施設等)に木材利用を検討して欲しい。

- (5) 木の良さを生かすという観点も重要であるが、木の需要量を増やしていくという観点からも、木を使うことを一般化することの方がより重要である。本会議では一般化、すなわち普通の施設に普通に木を使うことを目指す方向で進めて欲しい。

○議題5 大阪府内産材・能勢町産材の流通等について

事務局より、資料5-1、資料5-2、参考資料1-1及び参考資料1-2に基づき説明を行った。

- (1) 製材でも構造用製材を利用する場合は、大阪府内にJAS認定工場がないため、大阪府外のJAS認定工場(近隣であれば兵庫県等)で加工する必要がある。そのため、調達のしづらさは集成材と変わらないのではないか。
- (2) 構造用製材や構造用集成材についてはJAS認定の関係上、府外での加工が必要になることから、木材利用の1つの答えとして木質化もありうる。

○全体を通じて

- (1) 暖房としての薪ストーブや熱源としてのバイオマス利用などを公共施設で利用することが出来れば、持続的に供給をすることが可能なので、ガイドラインへの掲載についても検討して欲しい。
- (2) 構造的に木材利用が難しいのなら、木材利用をやめるのではなく、什器等で木材を利用する方法を考えて欲しい。
- (3) 木材を全て使いきるという観点では、構造材としての利用だけでなく、エネルギー利用等様々な利用方法を考える必要がある。

○次回の検討会議開催は、令和2年2月頃を予定。